東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ
夢をかたちに

Vol.42　第2061回例会　2009.1.29

今年度会長テーマ

（あい）に感謝　そして　実践しよう
ロータリーの志魂（こころ）

■司会：
細渕例会運営委員

■点鐘：町田会長

■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
石山会員

■お客様紹介：野崎（征）パスト会長

◆ゲスト：津久井ＲＣ山本芳昭様

■会長報告　町田会長

たいへん悲しい事ですが、河野さとしさんがお亡くなりになりました。残念でなりません。私達にとって古人のことわざは生活や行動の教訓であるだけに考えさせられる多くの言葉が現在も生きています。

たとえば「会うは別れの始め」という言葉があります。ことわざの中で一番悲しい名句ではないかと思っております。始まりがあれば終わりがあるのと同じで、会ったときの感激、喜びが大きければ大きいほど、別離の悲しみも大きいものです。しかし、会うことの後には必ず別れが来ることを知って、無常を感じます。男女の出会いだけでなく、人生の生と死の関係を痛切に表している言葉です。

何事も皆　偽りの世の中に
　死ぬるというふぞ誠なりける（一休宋純）
生まれては　つひに死ぬてふ事のみぞ
　定めなき世に定めありける（平維盛）
ついに行く道とはかねて聞きしかど
　昨日今日と思わざりけり（在原業平）
みな人の知り顔にして知らぬかな
　必ず死ぬる別れありとも（慈鎮和尚）
散りぬるをたが世ひとり常ならむ
　浅き夢見し酔ひの不酒ん（夢臣淡海）

仏教語に生者必滅、会者定離という言葉もあります。誠に人生は無常であります。

さて、今日は野澤パスト会長と樺澤直前会長の卓話です。ロータリーライフに役立つお話を伺えると楽しみにしています。

以上で、会長挨拶とします。ありがとうございました。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／高橋　眞　田中　重義
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

■幹事報告　　相羽幹事

■ロータリー財団委員会：
ロータリー財団地域セミナー(2008.11.19)
ハンドブックの受理
■ガバナー事務所：
・対人地雷除去、常任委員会、特別委員会の
予定について
2月23日(月)、4月13日(月)、4月22日(水)
・カンボジア現地視察関係連絡について
2/21 ヘイロ･カンボジアとの連絡打ち合わせの
概要報告について
・バーミンガム国際大会
「クラブ会長の特別サミット」の案内の受理
■青少年育成委員会：
地区青少年育成委員会開催の案内の受理
2009年3月3日(火)　15:00～17:00
於　ガバナー事務所
■回覧：「友」インターネット速報 No.366
小平ＲＣ週報
所沢中央ＲＣ週報
■国際ロータリー日本事務局：
ポール・ハリス・フェローピンの受理
中丸会員、田中会員

■出席報告　　土田例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
41	35	1	5	86.84

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：3名

■前々回出席率メークアップ修正後：94.74%

■前々会メークアップ者：
土方会員：地区活動
石山会員：小金井さくらＲＣ
熊木会員：所沢中央ＲＣ
目時会員：地区活動
漆原会員：東久留米ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　野村クラブ管理委員

◆ポールハリスフェロー受賞：
中丸会員、田中会員

◆樺澤会員：河野さんありがとうございました。
◆溝井会員：毎度のことですが、いつも会員の皆さまよりお世話になっております事を心から感謝いたします。今日も戸澤様に送迎をしてもらい出席することが出来ました。これからも宜しくお願い申し上げます。
◆相羽幹事：河野直前幹事ロータリー活動長い間ご苦労様でした。ゆっくりお休みください。
◆中丸会員：本日は樺澤さん、野澤さん卓話宜しくお願い致します。
◆肥沼会員、二ノ宮会員、野村会員：
河野さんロータリーご苦労様です。
ご冥福お祈りします。
◆野澤会員：河野さんのご逝去を心よりお悔やみ申し上げます。

本日のニコニコ合計：　14,000円
累　　計　：1,008,614円

■委員長報告

■高橋(眞)クラブ
管理委員長

職場見学及び親睦旅行へ是非多くの方の御参加をお願い致します。
今日現在17名の参加申込みです。
30名が目標です。ご協力宜しくお願い致します。

■卓話

■卓話者紹介：
中丸プログラム委員長

■樺澤(直前会長)会員
研修委員

ロータリー理解推進月間に因んで

ロータリークラブを創設されたポール・P・ハリスは昭和22年1月27日で今週はポール・P・ハリスを追悼する週間となっております。
ロータリー理解推進月間は、ロータリーについて会員に知識と理解を一層深めて戴き、また、同時にロータリアン以外の一般市民にもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間とあり、野澤会員という「職業奉仕」の権威者がおられるので、野澤会員の前座としてお話させていただきます。
職業奉仕の理念は、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱しているモットーの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。」とされていることは皆様よくご承知のことで、また、「ロータリーの友」に、ロータリーは、職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりと説明されております。
そして、ロータリーでは、職業奉仕の実践として佐藤千寿パストガバナーが会社の社是は、「最大となることを望まず、職業人の最も優れた倫理運動だ。」と説かれております。
そして、わが国にもこのような職業倫理の教えは古くからあり、先日は東京商工会議所の創立者の渋澤栄一氏が著書「論語と算盤」で述べられている「真正の利殖は仁義道徳に基づかなければ、決して永続するものではない。」もロータリーの職業奉仕に通じるのではないかとお話しましたが、本日はさらにさかのぼり、戦国時代の職業倫理の実践についてお話し、何故、今日のような職業倫理の退廃が生じ、ロータリーとしての今後の職業奉仕の取り組み方を考えてみたいと思います。
ロータリーでは、係争中の公共問題は意見を表明できないことになっておりますが、殿様、または家老としてではなく、職業分類は武士とし、政治思想としてではなく、職業倫理の実践として捉えていただきたいと存じます。
昨年、小学校の同級会に久しぶりに出席しましたら、来年のNHKの大河ドラマは「直江兼続」であるのと話しを聞き、「直江兼続」は知らなかったので、誰の話と聞きましたら、与板城のお殿様ということでした。
与板城は八国山のような山にあり、私の実家から3km程離れたところにあります。
皆さん、上杉謙信といえば、名前だけはご存知かと思います。戦国時代に越後を治めていた武将で、上杉謙信は「利」を嫌い、「義」を大事にしており、私欲のために弓矢を取らぬ、秩序を正すために戦い、人々の生活を守るという思想を生涯貫き通しました。
この上杉謙信の甥で、上杉謙信の養子となって、上杉謙信の後を継いで越後を治めた上杉景勝という武将がおり、この上杉景勝は現在、新潟県の南魚沼市にある樺澤城で生まれたといわれています。
この上杉景勝の近習、執政となり、家老となったのが直江兼続です。直江兼続は、上杉謙信の薫陶を受け、義を重んじ、義を追い求め、利を捨て、義をとることを身上としていました。
そこで、孟子は義は人間の欲望を追及する「利」とは対立する概念で、悪を恥じる心であると説いております。
この「義」を重んじ領民の生活を守るのが、武士の職業倫理であり、ロータリーの職業奉仕に通じるのではないでしょうか。
上杉景勝は越中、現在の富山県の魚津城で織田信長について加賀の国の柴田勝家と戦っており、上杉側の魚津城は落城したところに、本能寺の変が起き、明智光秀から上杉景勝に同盟を結ぶ申し入れがありました。上杉側からみれば眼下の敵、柴田勝家と戦うには明智光秀と同盟を結ぶことは有利なことでしたが、「明智光秀は謀反人であり、義の旗印を掲げる上杉の家名が泣きましょう。明智光秀は早晩に滅びるでしょう。」と直江兼続が上杉景勝に進言したといわれています。
また、豊臣秀吉が死んで徳川家康の世になるとき、徳川家康から上洛するようにとの要求に上杉景勝は上洛せず、徳川家康に義が無いと、直江状といわれる徳川家康に対する弾劾状を送り付けたところ、受け取った徳川家康は腹を立て、上杉景勝を討伐すると会津討伐に出しました。
この時、石田三成が徳川家康討伐と挙兵しましたので、徳川家康は急遽、江戸に向かって戻り始めましたので、上杉側と石田側とで徳川家康を挟み撃ちすれば徳川を滅ぼすことが出来ると思われていましたが、上杉景勝は「古来、我が上杉の戦いには義があった。謙信公も義のみに生きた、義という立場に立てば、逃げる徳川家康を背後から襲うのは義にあらず、不義である。よって、われらは徳川軍を追撃しない。」ということで、上杉側は徳川を追撃せず、結局、石田三成は関が原の戦いで一日にして滅び、上杉景勝は米沢に減封されてしまいました。
上杉景勝は豊臣秀吉によって越後から会津に国替えになりましたが、越後時代には、麻の一種の青芋が大きな財源でしたが、是も直江兼続の努力といわれており、また、直江兼続は新田の開発にも努め、今日の米どころの新潟県があるといわれています。
また、直江兼続が領主であった与板城の城下には打ち刃物の職人を連れてきて打ち刃物の待ちの産業都市、今日も与板の打ち刃物として知られています。
また、米沢に国替えになったときは、家来集団を連れて行ったため大変な財政事情で、治水、新田開発に努め、庭には柿を植え、垣根は「ウコギ」を奨励したそうで、財政破綻となった後世に上杉鷹山の改革に繋がりました。

この上杉鷹山のお話は、引き続き野澤会員にお願いします。
また、戸畑東ロータリークラブの菅正明様は、「物語職業奉仕」で鈴木正三さんのお話をされています。
この鈴木正三さんは、純然たる武士の家系で、徳川秀忠に従って関が原の合戦に出陣しましたが、徳川秀忠は合戦には間に合いませんでした。この鈴木正三は、大阪冬の陣、夏の陣にも出陣して武功を立て、さらに天草の乱の戦後処理に貢献され、天草にある鈴木神社に祭られているそうです。この鈴木正三は、「武民徳用」という著書の中で、「何の事業もみな仏業也」と職業に専念することが仏道修行であると説いており、徳川の初期にこのような職業観が芽生えていたことは評価されるものではないでしょうか。
「万民徳用」は士農工商のそれぞれの職業倫理をといたもの、先ず、「武士日用」は、武士の身の処し方、武士の倫理訓が書かれており、次に、「農人徳用」には、農業則ち仏業なり。得意悪しき時は賤しき業也。信心堅固なる時は、菩薩の行なり。といっております。農業をする以外に信仰生活があるのではなく、百姓にとっては、農業をすることが信仰生活である、心の持ち方の如何によって決まるのでロータリーは心に刻まれた何かであると合い通じるものがあると思います。次に、「職人日用」は士農工商の工ですが、どんな仕事も仏行だ。職人の仕事をちゃんとすれば成仏する。一切の仕事は、全て世の中のためになるものだ。天の理念かとおもいます。最後は、「商人日用」では、「商人は先ず金儲けを追及すべきである。そして身を擲って、ひとすじに正直の道を学ぶことなり。」として、この商売の作業は、国中の自由をなさしむべき役目の人々に、天道より与えられたところと思い、身を天に任せて利を得んとする心のたゆみなく、常に正直を旨として商いすれば、火が乾けるものにつき、水がひく木に下るように万事心にかなうため足るべし。と、いっています。「心を修めて、しかも世俗の中で職業倫理を実践するところに仏教の本質がある」と説いており、佐藤千寿パストガバナーも「ロータリーは心の持ち方だけでなく、実際の行動に移さなければならない」という考え方と同じかなと思います。
また、日本には、武士道があり、封建時代における武士階級の倫理及び価値基準の根本をなす体系化された思想があり、道徳体系の武士道とは「君に忠、親に孝、自らを節する厳しく、下位の者に仁慈を以ってし、敵には憐れみをかけ、私欲を忌み、公正成ることにを尊び、富貴よりも名誉を以って貴しとなす」とされています。
お話しましたように、日本には戦国時代から職業倫理が唱えられているにも拘らず、時代が経つごとに、職業倫理が失われ、我々ロータリークラブの会員はいかにすべきであるか問題を提起して終わりとさせていただきます。

■野澤国際奉仕委員

Fellowship「親睦」とは、ゴルフ、旅行、同好会、食事会等と解釈している方が多いですが、ロータリーでいう本来の親睦とは「友情」「友愛」です。「絆」でもよいでしょう。
クラブや会員が、ゴルフや食事会を、またいろいろな同好会を作り楽しむこと、このことが親睦の目的だと理解しているメンバーが多いですが、これは誤解です。親睦とはあくまで「友情」「友愛」を深めること、これが親睦の目的なのです。従ってゴルフ、旅行、また食事会等大いに結構ですが、これは「友情」「友愛」そして「絆」を深めるための手段なのであります。
ではこの親睦の目的を達成するために手段である旅行やゴルフをたくさんやれば目的は達成されるのでしょうか。いやそうではありません。数を多くすることは大切ですが、併せて質も考慮しなければ本来の絆は深まりません。
では、質の良いゴルフや旅行、その他の活動をたくさんすれば親睦の目的は果たせるのでしょうか。いやそうではありません。では言い替えればこの「友情」や「友愛」「絆」はこれで出来たという結論はありますか。いわゆる「友情」や「友愛」「絆」とは量や長さでは計り得ないものなのです。計るとすればその一人一人の考え方なのです。ロータリー運動が＜奉仕の理想＞を追求し続け、目的(ゴール)のない活動(マラソン)を続けるのと同じように、この本来の親睦である「友情」や「友愛」にも限りはありません。オーバーな言い方をすれば永遠なのです。ですからロータリーは何事においても「あなた自身」なのです。
あなた自身が、どう受け止め、それをどう咀嚼し、もって人に、社会に奉仕するか(与えるか)それが理解出来て初めて真のロータリアンとなる、ロータリーでは「親睦」と「奉仕」は車の両輪です。2点セットです。親睦を通して友情が深まり、絆が強くなることは当然ですが、
これだけが目的であればロータリーに入会しなくても、他の親睦団体がたくさんありますので、どの団体でも達成出来るものです。しかしロータリーは違います。ロータリーは「親睦」と「奉仕」は切っても切り離すことの出来ない相関関係にあるものです。ロータリー研究の第一人者、小堀憲助さんは次の様に言つています。「ロータリーにあっては、奉仕家は先ず奉仕のギアを廻してはならない、先ず親睦のギアを廻して、その動力を奉仕のギアに伝えなければならない」この様にして両者が成立して初めて車は動く訳であります。従って「親睦」だけでやる、「奉仕」だけやる、のは他の団体と何ら変わるものではありません。
また、言い替えて「親睦」と「奉仕」をトラックに例えれば、「親睦」は車のエンジンであり、「奉仕」は後の荷台であります。先程言いましたいろいろなフェローシップというエンジンを強力に回し、もってたくさんの「奉仕」という荷物を積んで、ひたすら走る、走る、どこまでも、「奉仕の理想」を求めて、なのであります。たくさんの「奉仕」を積み込んでも、エンジンがかからないことには実行することはできません。
そしてロータリーはこの2点セットで個々の品格を高め、高められた倫理、道徳を携え、次のステップである「社会奉仕」「国際奉仕」へと移行していく訳であります。従ってロータリーで言う「奉仕の理想」はこの「親睦」と「奉仕」より始まり、四大奉仕が達成され、始めてロータリアンとしての資質が備わるのであります

■点鐘：町田会長